

# 魔性の海老名

ちゃん



Umaru-chan  
Fanbook



# 魔性の海老名ちゃん



Umaru-chan  
Fanbook



# はしがき。

はじめまして、もしくはお久しぶりの歩く電波塔の会です。今回は「干物妹！ うまるちゃん」本なのです。ところで「干物妹」って何のことかなって思ってたんですが兄に金を無心する「ヒモ」の妹という意味って説を思いついたので積極的提唱していきたい今日この頃です。「紐の妹」って書くとまるで例の紐着けてそうなイメージがありますが、おっばい大きいのは海老名ちゃんの方。良く考えると妹は10歳年下がデフォという凄い世界観の作品なのですよね。

海老名ちゃんと言えはいじめてオーラ全開の超巨乳JK。引っ込み思案で気が弱く実にいじめ…もとい…いじりがいのある子ですよね！ イラマ手網付きですし！ この本は健全本なのでエビ掴み強制イラマとかツインテ手網バック責めとか入れられなかったのが残念です。

# EBINA NANA

うまと並ぶと目立たない海老名ちゃんですが実は彼女も負けず劣らずの美少女です。しかも街を歩けばその秋田産スイカップゆえに胸ばかり注視されて本人はショックから諦めの境地へ…あれ…この設定どこかで見た、ような…？というわけで、魔性の海老名ちゃんをやってみたくなっとなつてつい魔がさしてやってみちゃった次第なのです。魔性だ…。

なお、描いてみたら競泳水着だらけになってしまいました。うまるたちの通う高校はテニスとかの屋外スポーツは女の先生が担当するのにプールだけ男の体育教師なんですよね。しかも学校での海老名ちゃんは卒業が危ぶまれるレベルの成績底辺飛行で体育も（水泳も）大変厳しい状態。これは弱み握られてるに等しい状況なのでは。体育の単位一つで言いなりになるしかない状態。留年とか精神的に耐えられなさそうな内気な少女ですし。なのに身体は発育しすぎてメチャシコエロボディを持って余し、毎日のようにお兄さんを思いながらセルフプレジャー（流行語）しているので、性感は十分開発されて快樂で即墮ちしそうな処女娼婦状態。そんな自分のふしだらな身体が心底嫌で…とかいう感じの。はやくお兄さんが幸せにしてあげないと即AV墮ちぽい。

本当は海老名ちゃんとタイハイお兄さんとのらぶらぶHも書きたかったです（てゆか描いてたけど間に合わなかった）。タイハイお兄ちゃんぐう聖すぎて（うまるそっくりの母親にマザコン発症したまま成人した気配有りますが）性欲に乏しそうなので、海老名ちゃんはお薬盛るしかないよね！



原作では  
人生ゲームの話を  
ゴクに転職した  
お兄さんが結婚  
したのが  
どうみても  
エビちゃん  
たまたまの  
(しかも子供3人)  
正妻ホッソ確定



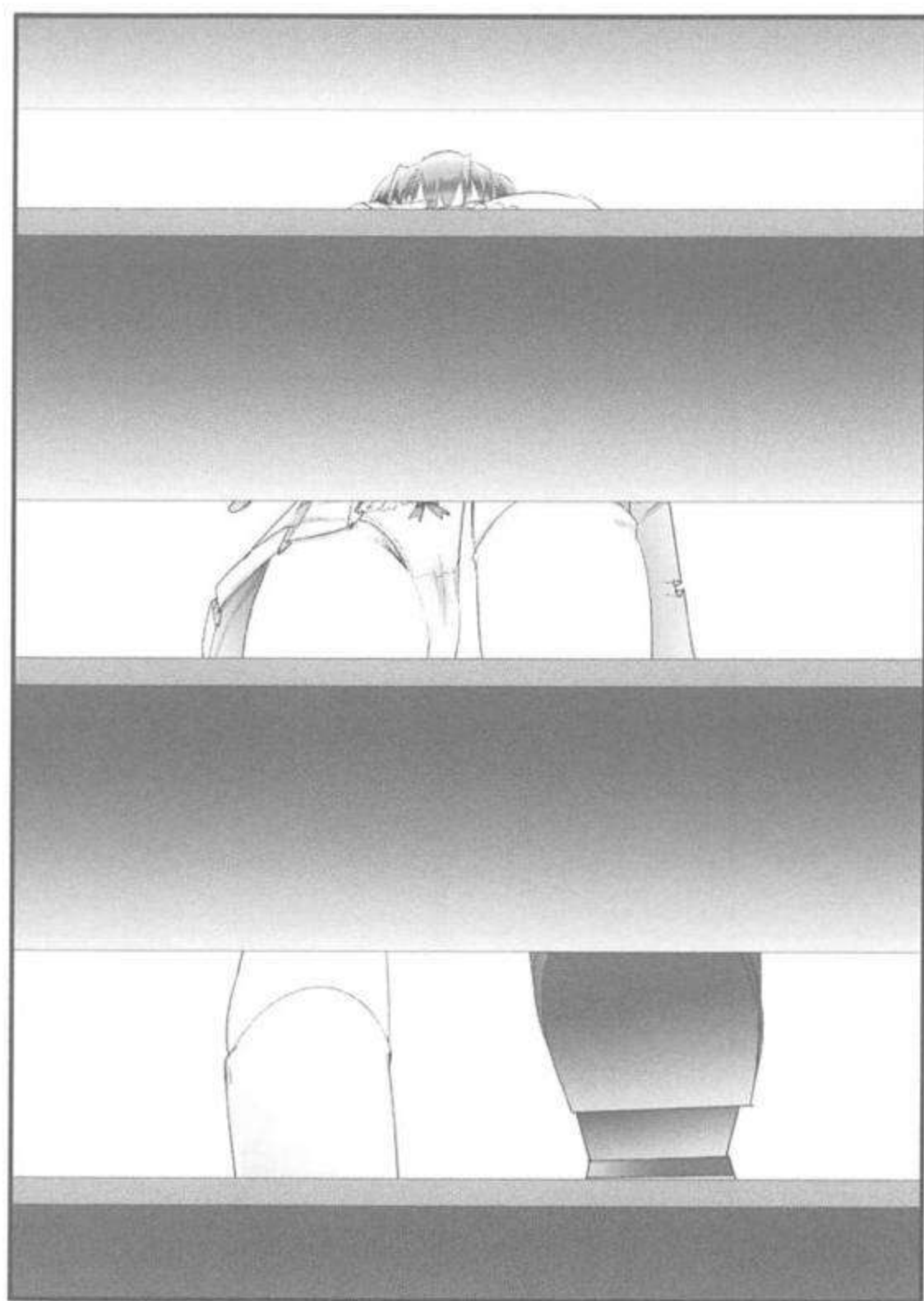
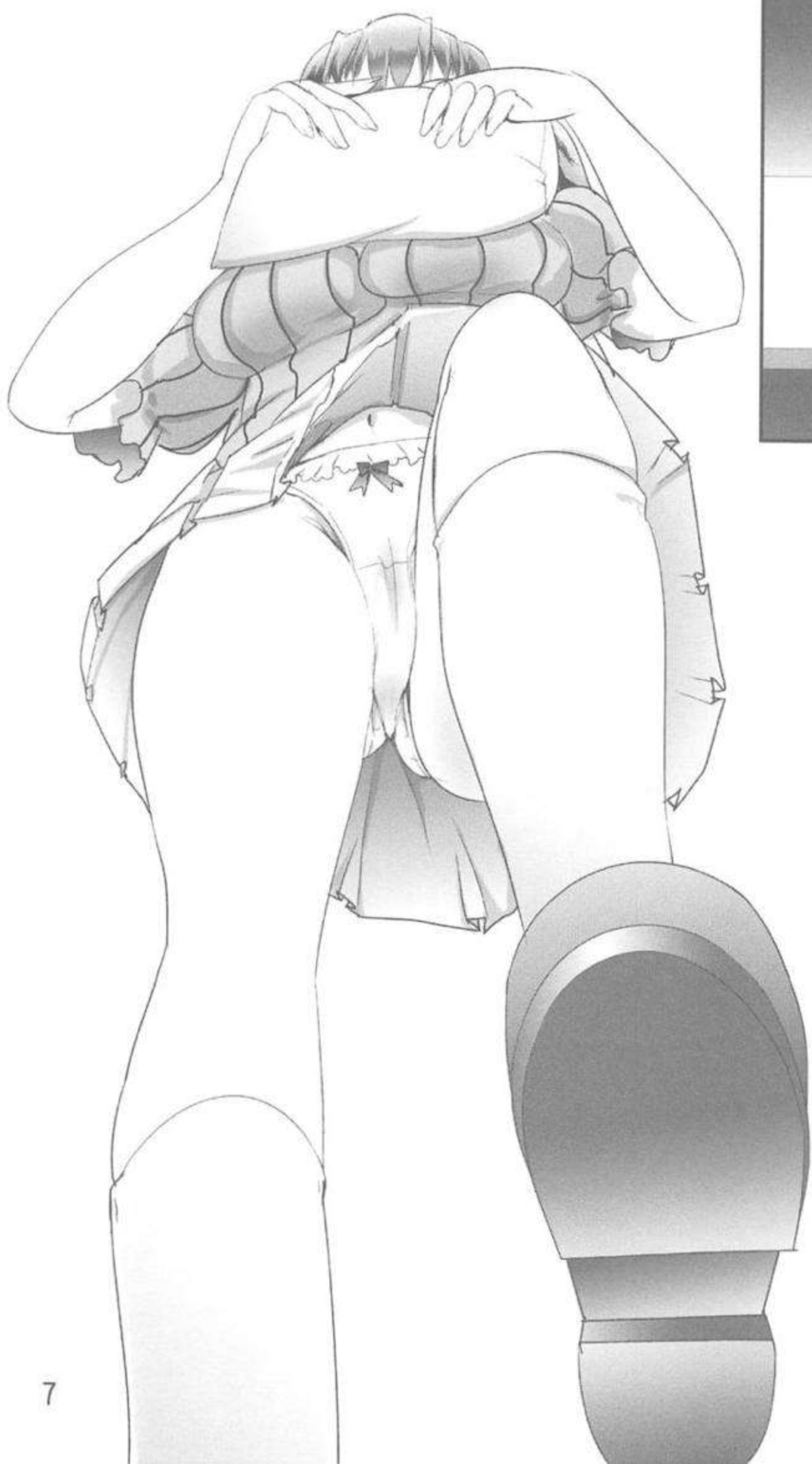




## あばさんの宅配便

月に一度は届く実家からの宅配便。そこに詰まっているのはなつかしい故郷の味。四季折々のコメや野菜が彼女の豊満なボディを支えている。

※お母さん、の意。



## アパートの二階へ

海老名ちゃんの住むアパートの上の  
土間さんちに実家から送られてきた  
あきたこまちをおすそ分けに行く、  
スキマの多い階段は下から丸見えに。



## 毎日3回の運動

ネコロンブス巨大ぬいぐるみ大活躍。  
コーポ吉田の床板は薄いので、大きな  
声を出したら筒抜け。しかしうまるが  
騒がしいおかげで周囲に気付かれない。













## 補習授業

水泳の実技が不得手なことを理由に、男の体育教師に居残りを命じられる。うまるという防波堤のないプールで、ストレッチの最中も視線を感じる。





## 補習授業Ⅱ

泳ぎのフォームを指導すると称して  
無遠慮に体をまさぐる体育教師の手。  
抵抗しないとみてその手は探る様な  
動きから次第に大胆さを増してゆく。

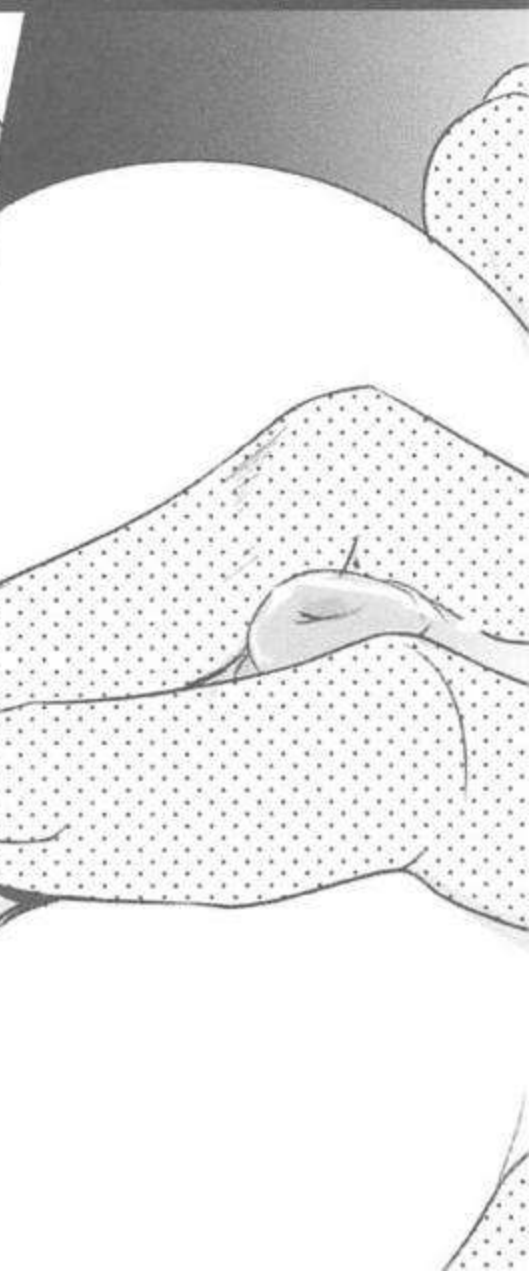














補習授業Ⅲ







監視カメラ2









※原作コミック 4巻22ページ参照。

## 翌朝の登校

股間の痛みと違和感は消えなかった。  
自分の身体とは思えないほどに重い  
四肢を、引きずるようにして歩く。  
ひりつく痛みで両足が開いていても。





## 家庭訪問

家に帰った直後に鳴り響くチャイム。  
てっきり親友と思いドアに駆け寄る。  
だが覗き穴を確認もせず開けた戸口  
の向こうには大柄な男の姿があった。





ずっと天井だけ見ていた



作業中に原作の内容を反芻した結果、アレックスくんが土間建設のうまるパパに送り込まれたうまるちゃんの政略結婚の相手である可能性が高いことに気が付いて動揺するクラスタ。

ダメです、妹は嫁には出しません！とか絶叫してたらいつのまにか時間が過ぎ去って締切が来ていてですね…

ページ数が予定より少なくなったりいろいろと残念な結果がですね……他にもwindowsが勝手に自動更新して休日の作業データがセーブされずに電子の海に消え…ああ、窓に！窓に！（日記はここで終わっている）

この報告は  
2週間前にとり  
リョウリだった。



“魔性の海老名ちゃん”  
Dried-Sinter UMARU-chan Fanartbook

発行 歩く電波塔の会 / きむら秀一  
<http://homepage3.nifty.com/mayura/>

発行日 皇紀2675年8月16日

印刷 大陽出版様



